



西行好みの景色しのぶ

4月2日、長島町永田で「梅露庵公園梅まつり」が開催されました。公園は、西行法師が庵を結んだと伝えられている屋敷跡で、平成15年に地元の永田区で公園として整備し、西行歌碑のあるシダレザクラとウメの名所として親しまれています。

訪れた皆さんは、雨で鮮やかさを増した梅の花に西行法師が好んだ恵那の景色を思い、和歌を投稿する人や、温かいトン汁、五平もちなどを食べて楽しむ人までにぎわいました。

西行法師の好んだ景色を楽しむ皆さん

グルメ列車に春の訪れ

4月4日、明知鉄道のグルメ列車の一つで、旬の山菜料理を味わう「深山春の味、らんらん列車」が始まりました。列車は5月までの毎週火、金、土、日曜日に運行されます。

初日は恵那ロータリークラブ（青山貫禅会長）が、初めて列車内で例会を開催し、会員ら約40人がフキノトウやタラの芽など山菜のてんぷらやアマゴの塩焼きなどを車窓の田園風景とともに楽しみました。その後、明智駅を降りた皆さんは大正村を散策しました。

列車内で旬の味覚と景色を楽しむ皆さん



伝統芸能歌舞伎公演

4月8日、飯地町「五毛座」で第23回飯地五毛座歌舞伎公演が開催されました。飯地の歌舞伎は、江戸後期に神社境内で行われていた狂言芝居までさかのぼり、昭和27年の保存会結成以来、隔年の4月に公演が開かれています。当日は「義経千本桜道行初音旅」、「妹背山婦女庭御殿の段」を披露し、迫真の演技に場内から大歓声とおひねりが舞いました。また地元の役員や大井文楽も参加し、会場に花を添えました。

歓声を受け、迫真の演技を披露する保存会の皆さん



2千体の土びなを展示

3月26日から4月3日まで明智文化センターで土びな祭りが開催されました。会場には約2,000体の土びなが飾られ、訪れた人はその数の多さと、さまざまな形の土びなを楽しみました。昔、明智周辺では「かわらびな」と呼ばれ、子どもたちはこの時期になると各家庭を訪れ、ひな人形を見せてもらい、からすみなどをもらって回る習慣がありました。会場ではその風習を懐かしみ、訪れた方からすみや甘酒が振る舞われました。

ずらりとならんだ土びなに見入る来場者

ダム完成で地域に潤い

地元住民の願いであった中野方ダムが完成し、3月27日にしゅん工式が行われました。古田知事をはじめ、可知市長や地元住民など約400人が出席しダムの完成を祝う中、可知市長は「悲願の完成。この地域の夜明け」とあいさつを述べました。ダムは平成2年から岐阜県を主体に建設が進められ、高さ約42m、幅約390m、約371,000立方mを貯水し、周辺の約600世帯、2,200人の水道水確保のほか、水害防止対策などに役立ってます。

中野方ダムしゅん工のテープカット



恵南商工会スタート

4月1日、明智駅前の恵那市恵南商工会館で恵那市恵南商工会の看板の除幕式が行われました。横田晴彦会長、西久保成樹、岩間一郎両副会長は、関係者が見守る中、看板を会館の玄関に取り付けた後、横田会長から職員18人に辞令が交付。横田会長は、「厳しい世相の中、会員のために積極的に取り組んでほしい」と訓示を述べました。商工会は、5月中旬に総代会で事業計画などを承認し、事業がスタートする予定です。

新しい看板を取り付ける横田会長ら関係者の皆さん



おいしい顔自慢が集合

串原のくしはら温泉マレットハウスで16日、「トマト大福おいしい顔コンテスト」が開かれ、県内外から20組49人が参加。自慢のおいしい顔で競い合いました。

「トマト大福」は、地元産トマトと白あんをもちで包んだもので平成14年の発売以来約15万個を超える売れ行き。コンテストでは、カップルや家族などが参加し、中津川市阿木の片桐里志さんと伊藤瞳さんのペアが優勝し、トマト大福1年分が贈られました。

自慢のおいしい顔で優勝を狙う参加者



昭和の名車がズラリ

明智町の日本大正村で4月9日、市内クラシックカー愛好者らが主催する「第11回クラシックカーで大正村を走ろう」が開催されました。今では見ることが少なくなった、生産後20年以上たった車が参加対象で、昭和27年製の輸入車をはじめ、県内外から約70台の「昭和の名車」が集まりました。パレードでは大正村の古い町並みに溶け込みながらゆっくりと走行。見物客やカメラを構えるファンに安全運転を呼び掛けました。

安全運転を呼び掛け走るクラシックカー

インラインスケート始まる

4月16日、クリスタルパーク恵那スケート場でサマーシーズンオープンとして会場が無料開放され、約540人が訪れました。一周400㍍のリンクでは、インラインスケートの愛好者が滑りを楽しみ、リンク外では初心者を対象に無料講座が開かれ、基本的な滑り方を習い、子どもたちは練習を楽しみました。フットサル場でも無料講座が開かれ、ルールやゲームの進め方を習い、参加した子どもはボールを楽しそうに追いかけていました。



習いながらインラインスケートを練習する子どもら

新しい図書館の夢加速

4月11日、市役所で伊藤青少年育成奨学会が、長島町中野の市有地などに図書館を建築し、市に寄付すると発表し、伊藤喜美理事長が趣意書を可知市長に手渡しました。

現在の市図書館は昭和59年恵那文化センターに設置。老朽化と規模が手狭なことから総合計画に新図書館の構想が盛り込まれていました。市では、自治会や市民団体の代表らでつくる「(仮称)市中央図書館建設協議会」で図書館サービスなどの協議を進めます。



市長に趣意書を渡し、握手を交わす伊藤理事長(左)



武並に集いの拠点完成

武並町竹折に武並コミュニティセンターが完成し、4月18日、関係者約160人が参加して完成式が開催されました。式典では、武並小児童らが合唱などで完成を祝いました。

建物は鉄骨平屋約990平方㍍、300人収容の集会室や調理実習室、和室などがあり、周囲には地域の皆さんが3月に苗木を植えて環境整備を実施。武並小学校に隣接し、公民館に振興事務所を併設する施設として、まちづくり・文化活動の拠点として活用されます。

新しい地域拠点に武並小児童らの声が響きわたりました



鉄道安全の象徴を復元

明知鉄道で長年活躍し、現役を引退した腕木式信号機が岩村駅構内にモニュメントとして復元され、4月14日、披露式が開催されました。同信号機は、駅に入る列車運転士に手で腕木を上下させ、進行・停止を指示するもので、昭和9年の開業から平成16年3月まで鉄道の安全を支えてきました。信号機は駅構内に2基設置され、列車利用者や駅への入場料を払えば操作体験も可能で、明知鉄道のシンボルとして後世に残されます。

復元された腕木式信号機を見上げる関係者